

Book Review

超高齢社会のための 新編 専門的口腔ケア 要介護・有病者・周術期・認知症への対応

角 保徳 編著
大野友久・守谷恵未 著

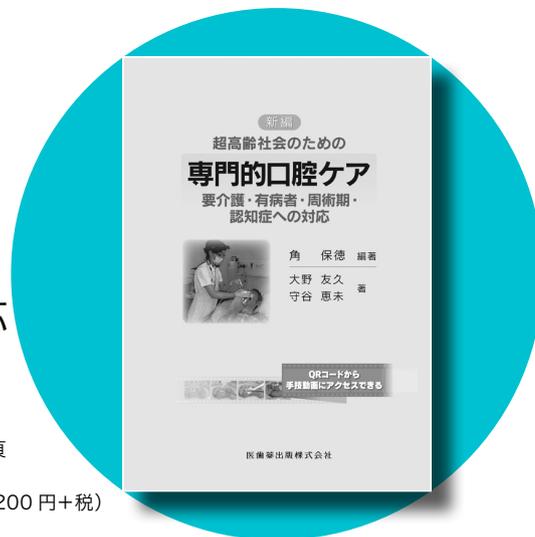


Reviewer

戸原 玄 Haruka Tohara

(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

B5判, 184頁
オールカラー
定価(本体4,200円+税)
医歯薬出版刊



「口腔ケア」という言葉からはおそらく口の中をきれいにすること、もう少し言うと要介護状態や入院している高齢者など、ご自身で口を清掃できない患者さんに対する口腔清掃で、誤嚥性肺炎予防のために口の中をきれいにすることを思い浮かべる方が多いかもしれない。もちろんそのような目的はとても重要なことであるが、口の機能には何かがあるかを考えてみたい。

口の機能の一つに食べる機能があるが、食べる機能にも嚙む、飲むがあげられるだけではなく味わうこともその機能のうちに入る。また、口は呼吸にも関与するし、舌打ちなどの感情表現や話すことを含めたコミュニケーション、口の中の異物を認識して出すこと、唾液に含まれる消化や免疫物質の分泌、さらに口元は顔貌を形成する要素でもある。したがって、その人の若さ、元気さや社会性を表現しうる器官の一つと言えるかもしれない。

逆に言うと口腔の状態が悪いことで、乾燥痰がたまりすぎて呼吸が苦しい、外れてしまった入れ歯を出すこと

ができずにのどに落ちてしまうこともある。また、長い間食べたり話したりしていないため口腔周囲の筋肉の動きが悪くなったことで、いかにも調子の悪い患者さんというようにしか見受けられず、周囲がコミュニケーションを取ろうとする機会もさらに減るという悪循環にもつながる。

つまり、口腔ケアは口の中をきれいにすることだけが目的ではなく、それらの機能を保ちうることを目的としたケアということができよう。

本書は網羅的な視点から口腔に対するケアを整理し、数多くの写真があるだけではなく動画を使ってきわめてプラクティカルにわかりやすくまとめられている。歯科医療従事者だけではなく、看護職やまた熱心な介護職にとっても必携の一冊である。

内容の一部を紹介すると、歯科医療が担うべき社会的役割の変化についての解説から始まり、口腔ケアの定義や口腔ケアを実施するにあたって必要な知識や評価方法についての解説へと続く。その後、口腔ケア手技についての

解説になるが、なかでも「水を使わない口腔ケア」について解説したChapter5は、新しい手技の提唱となっており一読の価値があるだろう。その動画もインターネット上で閲覧可能となっており必見である。さらに近年保険収載された周術期口腔機能管理の実際や、今後超高齢社会の進展に伴い、ますます問題になるであろう認知症患者への具体的な対応方法、さらには新しい概念である化粧療法と口腔ケアについての言及もある。

2012年に出版された初版から新編になるにあたり、これらの追加されたChapterが目玉だが、以前からの内容も決して古くはなく、また現在の医療現場の実際に合わせて一部改変されている。したがって、初版をすでにもっている読者も是非お読みいただきたい。

なお、巻頭マンガは是非読み飛ばすことなく、Dr. スミのやさしい笑顔と語り口を心においてから口腔ケアの大切さを深く知ってほしい。